

授業科目名	【G】	教育方法・ICT活用論	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2	
	【H】	教育方法・ICT活用論			【H】2		【H】2	
	【I】	教育方法・ICT活用論			【I】2		【I】2	
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	オムニバス	【G】	教員の免許状取得のための必修科目	【H】	教員の免許状取得のための必修科目	【I】	教員の免許状取得のための必修科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法							
サブタイトル	「人として教える」行為の中で意味付けるICT活用をめざして				担当者	後藤 雅彦 ・ 加納 久子		
授業概要	【概要】	<p>【実務(中学・高等学校教諭)経験を活かした授業】 中学校及び高等学校における教育経験をもとに、学校現場で求められる基礎的な実践的指導力の育成を図る。</p> <p>例えば、学校で何千時間もすでに受けて来た自らの授業にかかることも、「教育(の)方法」を考える一つである。そこには、教師として「どんな方法や力を身に付けることが必要なのか」貴重な実体験が詰まっている。ここを起点に、授業の基本動作を試みしてみる。つまり、「人として教える」行為の中で、「ICT活用」も自覚され、最終的に教師として「授業に生きる」意義を見出ししていく。</p>						
	【到達目標】	<p>○授業を「受ける」側から、「つくる」側へ転換する中から、「教育(の)方法」を再考することができる。</p> <p>○ICTの活用を、単に方法論として捉えるのではなく、自身の「人として教える」行為の中で自覚し、その技量を身に付けることができる。</p> <p>○教師として「授業に生きる」道程で自らに足りない力を自覚し、その獲得に歩み出している。</p>						
履修条件	「教育原理」及び「教職論」を履修済み、もしくは本年度に履修予定の者							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【○】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【○】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【○】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	社会科・公民科指導法入門(2023年度生までは社会科・公民科指導法Ⅰ)、社会科指導法Ⅰ(2023年度生までは社会科・公民科指導法Ⅲ) 社会科指導法Ⅱ(2023年度生までは社会科・公民科指導法Ⅱ)、公民科指導法(2023年度生までは社会科・公民科指導法Ⅳ) 社会科・地理歴史科指導法入門(2023年度生までは地理歴史科指導法Ⅰ)、地理歴史科指導法(2023年度生までは地理歴史科指導法Ⅱ) 情報科指導法Ⅰ(2023年度生までは情報教育法Ⅰ)、情報科指導法Ⅱ(2023年度生までは情報教育法Ⅱ)							
教科書	特に指定しない。							
参考書	相垣忠「教育の方法と技術Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び」北大路書房							
評価方法	授業への参加態度(30%)、課題への取組内容(30%)、発表やその提出資料・小論文(40%)を総合して評価する。							
フィードバック方法	毎時間の「復習シート」、課題取組(模擬授業を含む)へのコメント							
評価基準	授業内容について、よく理解しており、応用力もある者には、その程度に応じて「S」または「A」とする。さらに授業内容の理解の程度に応じて、概ね理解しているを「B」、最低限の基礎力を備えているを「C」とし、以上「S」から「C」までを「合格」とする。 授業内容について、基礎力が不足しているを「D」、基礎力が著しく不足しているを「E」とし、「D」「E」を「不合格」とする。 なお、欠席超過や試験欠席等は「F」とし、「評価不能」とする。							

授 業 科目名	【G】	教育方法・ICT活用論	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
	【H】	教育方法・ICT活用論			【H】2		【H】2
	【I】	教育方法・ICT活用論			【I】2		【I】2
授業回数	授業内容						
1	イントロダクションー「印象に残った授業」を紹介しようー						
	予習： 90分を目途に、「印象に残った授業」を振り返る。			復習： 90分を目途に、「印象に残った」理由を整理する。			
2	めざす授業ー主体的・対話的で深い学びを支えるものとは何かー						
	予習： 90分を目途に、「印象に残った」理由を整理する。			復習： 90分を目途に、発表を通して考えたことをまとめる。			
3	授業を支える指導技術ー「伝える①」						
	予習： 90分を目途に、テーマに対する自分の考えを検討する。			復習： 90分を目途に、テーマに対する「伝えたいもの」を整理する。			
4	授業を支える指導技術ー「伝える②」前半グループ						
	予習： 90分を目途に、テーマに対する自分の考えを整理する。			復習： 90分を目途に、「伝える」力とは何か振り返る。			
5	授業を支える指導技術ー「伝える③」後半グループ						
	予習： 90分を目途に、テーマに対する自分の考えを整理する。			復習： 90分を目途に、「伝える」力とは何か振り返る。			
6	授業を支える指導技術ー「話し合いと黒板」グループ①						
	予習： 90分を目途に、話し合いのテーマを練る。			復習： 90分を目途に、「話し合い」に必要な力とは何か振り返る。			
7	授業を支える指導技術ー「話し合いと黒板」グループ②						
	予習： 90分を目途に、話し合いのテーマを練る。			復習： 90分を目途に、「話し合い」に必要な力とは何か振り返る。			
8	授業を支える指導技術ー「話し合いと黒板」グループ③						
	予習： 90分を目途に、話し合いのテーマを練る。			復習： 90分を目途に、「話し合い」に必要な力とは何か振り返る。			
9	授業を支える指導技術ーICT活用授業 導入						
	予習： 90分を目途に、授業資料を読み、不明な語句や疑問点について調べる。			復習： 90分を目途に、授業内容を振り返り、学修した知識や機能を復習する。			
10	授業を支える指導技術ーICT活用授業 準備						
	予習： 90分を目途に、教材作成に必要な素材(画像、テキスト、データ等)を収集しておく。			復習： 90分を目途に、授業内容を振り返り、学修した知識や機能を復習する。			
11	授業を支える指導技術ーICT活用授業 発表①(前半グループ)						
	予習： 90分を目途に、発表に向けた準備を行う。			復習： 90分を目途に、授業内容の振り返り、ICT活用の意義や課題について整理する。			
12	授業を支える指導技術ーICT活用授業 発表②(後半グループ)						
	予習： 90分を目途に、発表に向けた準備を行う。			復習： 90分を目途に、授業内容の振り返り、ICT活用の意義や課題について整理する。			
13	「授業に生きる」ー教育方法の何を身に付け、どんな授業をめざすのかー						
	予習： 90分を目途に、ICT活用の意味付けを検討する。			復習： 90分を目途に、小論文を検討する。			
14	まとめー「授業に生きる」私の場合① 前半グループー						
	予習： 90分を目途に、小論文を検討する。			復習： 90分を目途に、小論文を検討する。			
15	まとめー「授業に生きる」私の場合② 後半グループー						
	予習： 90分を目途に、小論文を完成させる。			復習： 90分を目途に、めざす教師像を再構築する。			
その他	グループ活動を円滑に進めるため、全体履修人数に応じ多少の内容修正をする場合がある。また、常にポートフォリオ形式で授業資料等を分類整理する。						